

3 成果と課題

本年度実施した「地域学校協働活動の実施に関するアンケート調査」の結果、県内の地域学校協働本部の設置数は14市町村31本部で、仙台市を除く県内市町村の4割を超えた。また、今回の事例集を取りまとめたところ、約30%の中学校と34.5%の小学校をカバーしていることが分かった。他の市町村においてもそれに類する推進組織等が学校支援活動等を行っており、地域学校協働活動のボランティア人材バンク等、名簿に掲載されているボランティア数は約2,830名となっており、(平成31年1月末現在)地域学校協働活動の充実と推進体制の整備が進んだ成果と考えている。

アンケートでは、児童・生徒が地域の祭りに参加する割合は9割を超え、地域活動にボランティアとして参画する割合も増加している。また、学校における「教育計画への目標や計画の明記」については、昨年度から大きく増加し約74%となっている。しかし、これまでの支援から、地域学校協働活動の意義でありメリットでもある協働という双方向性を考慮すると、地域学校協働本部が全ての学校をカバーし、全ての学校が地域と目標を共有し計画に位置付けることができるよう、県主催の研修の内容や普及・啓発の方法をさらに工夫していかなければならないと考えている。

市町村の成果と課題

(1) 成果

① 子供たちへの学習効果

体験活動を通して学習内容が深まったこと、また、多様な学習機会が主体的に学習に取り組む場となったことで子供たちの学習意欲が向上した。さらに、子供たちの地域に対する愛着形成を促すと同時に、自己肯定感を高める場となっている。

② 推進体制の整備による効果

推進体制の整備により、継続的な活動と安定した学習機会の提供が可能となり、活動にかかわる住民が増加した。また、目標や学習内容を共有しながらプログラムを工夫することで、協力する人材や支援団体の活用を促進することができた。

③ 地域課題の解決と教育力の向上

地域住民の生涯学習機会の充実と活躍の場が創出されることで、子供と支援者、支援者同士など、地域住民の交流が生まれ、地域が活性化するとともに、地域住民の生きがいがいづくりにつながっている。また、学校に関わる地域住民が増加することで、地域リーダー育成にもつながり、協働教育に対する理解の深まりとともに、地域教育力が向上している。

(2) 課題

① 地域の課題

少子化に伴う学校統廃合や地域における人と人とのつながりの希薄化により、地域活動の衰退が課題となっている。そのため、人々が安心して生活し学習に取り組むことができるよう、地域コミュニティを再構築するとともに地域住民の活躍の場を創出

し、子供を含めた地域住民の自己有用感を育成することが求められている。

② 人材確保と活動の工夫

多くの市町村において、高齢化によるコーディネーターやボランティアの人材確保と育成とボランティアのモチベーションの維持が課題となっており、より広く効果的に情報を発信し、活動に対する理解を深めるとともに、人的資源の活用への工夫が必要である。ひとつの解決策として、学校や地域の目標やニーズを共有し、学習内容のさらなる充実を図るとともに、活動そのものが地域課題解決に向けた取組とすることが必要である。

③ 推進組織の設置に向けた課題

推進組織の設置に向けて最も重要としているのは、無理なく持続可能で効果的な組織とすることである。そのためには他部局と連携することや、家庭・地域・学校の連携・協働について地域住民の理解を得ることが重要であり、より一層啓発活動が必要とされる。

推進体制の整備による課題解決

各市町村からの成果と課題について前述のとおりであるが、例えば自己有用感の形成など、ある市町村において課題となっている内容が、他の市町村では成果として挙げられている。また、活動の協力者となる人材の不足は多くの市町村の抱える共通の悩みである。県としても人材育成のため研修内容を工夫する必要があると考えているが、地域学校協働活動の推進体制が整備されることで、地域住民の活躍の場や生涯学習の機会が創出され、そこに人と人との交流が生まれ、地域リーダーの育成や協力者の輪が広がっている事例が多くの市町村から報告されており、さらに積極的な体制整備を期待している。

社会に開かれた教育課程の共有

子供たちに対し多様な学習機会の提供が可能になったことで、学習意欲の向上や学習内容の深まりを実感している市町村が多いことは注目すべき点である。まさにこれから求められる学びの在り方に通ずるものである。急激な社会変化に対応できる子供の育成を目指し、地域と学校で目標や学習内容について共通理解を図り、協働による学びの場としてより効果的な取組にしていきたい。

好循環の基盤づくり

学校を核とした教育基盤を地域住民の手で構築することにより、人々の交流を促し、活躍の場が創出されるなどの好循環を生み出していることが各市町村から報告されている。また、子供たちには確実に地域への愛着心が育まれていることが分かる。

子供は地域の宝であり未来そのものである。効果的な普及・啓発の方策や学習プログラムを工夫することで、多様な人々の知識や経験を活かす仕組みを定着させ、地域の将来を担う人材の育成と活気のある地域づくりを推進していきたい。

